

石川県本土部から発見されたナギサスズ

渡部 晃平・山崎 和哉

WATANABE Kohei & YAMAZAKI Kazuya

ナギサスズ *Caconemobius sazanami* (Furukawa, 1970) は、神奈川県真鶴海岸で採集された個体を基に記載されたヒバリモドキ科ナギサスズ属の一種である（日本直翅類学会編, 2016）。石川県産の本種は輪島市の舳倉島、七ツ島大島、七ツ島荒三子島から記録されており（大串ら, 1980; 大串・徳本, 1986; 富沢ら, 2011）、このうち大串ら（1980）は幼虫のみの確認である。日本直翅類学会編（2011）では石川県のナギサスズ、ウスモンナギサスズ *C. takarai* (Ôshiro, 1990) の両種に「近似種と区別せず」という表記がなされている。これは、ナギサスズを記録した文献上では、ナギサスズと混生する可能性がある近似種のウスモンナギサスズとの区別がなされていないという理由によるものと考えられる。一方で、石川県版 RDB ではナギサスズとして絶滅危惧 II 類に選定されており（石川県野生動物保護対策調査会, 2020）、本土部からの記録はない（石川県野生動物保護対策調査会, 2020）。筆者らは石川県本土部の複数地点でナギサスズを確認したので、報告する。

1 ex., 石川県輪島市光浦町, 12. VIII. 2023. 山崎目撃; 1♂, 1♀ (図), 同地, 10. IX. 2023. 渡部採集・保管; 1♀, 石川県羽咋市滝町, 29. VIII. 2023. 渡部採集・保管。

本種を採集したのはいずれも礫浜で、10~40 cm 程度の大きさの石が堆積していた。これらを掘り進めると、隙間を素早く動く本種が発見され、その一部を採集した。輪島市光浦町では採集個体以外にも多くの成虫が発見されたが、羽咋市滝町では1時間程度の調査で1個体しか確認できなかった。石川県本土部の複数地点で確認されたことから、実際にはより広範囲に分布している可能性がある。

文献調査の過程で、富沢ら（2011）、石川県野生動物保護対策調査会（2020）に掲載された生体写真を確認したところ、どちらも背面に淡色斑を欠くことからナギサスズであると考えられた。石川県にナギサスズが分布していることは確実であるが、ウスモンナギサスズとして報告された記録は存在しないため、分布確認のための調査が必要である。



図. 石川県本土部で発見されたナギサスズ

引用文献

- 石川県野生動物保護対策調査会, 2020. 石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック 2020〈動物編〉. 石川県生活環境部自然環境課, 金沢.
- 日本直翅類学会(編), 2011. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑 第4刷. 北海道大学出版会, 札幌.
- 日本直翅類学会(編), 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 株式会社学研プラス, 東京.
- 大串龍一・徳本 洋, 1986. 舩倉島・七ツ島の陸上動物相. 日本海域研究所報告 (18): 1-20.
- 大串龍一・徳本 洋・江口元章, 1980. 能登七ツ島の陸上動物相. 日本海域研究所報告 (12): 33-48.
- 富沢 章・吉道俊一・中田勝之, 2011. 舩倉島・七ツ島の昆虫相. Pp. 197-211. 舩倉島・七ツ島自然環境調査団・財団法人 北國総合研究所内(編), 学術誌 能登 舩倉島・七ツ島の自然環境. 291 pp. 舩倉島・七ツ島自然環境調査団・株式会社 北國新聞社, 金沢.